

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

⑨ 公開特許公報 (A) 平1-122472

Int. Cl.<sup>1</sup> 分類記号 庁内整理番号 ⑨公開 平成1年(1989)5月15日

B 41 J 19/04 8703-2C  
13/00 8603-2C  
15/16 8703-2C  
17/32 A-8703-2C 審査請求 未請求 発明の数 1 (全1頁)

⑨発明の名称 転写紙および記録紙収納カートリッジ

⑩特 願 昭62-280794

⑪出 願 昭62(1987)11月6日

⑫発 明 者 長 田 尚 省 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクタ

⑬発 明 者 加 藤 茂 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクタ

⑭発 明 者 市 東 敏 克 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクタ

⑮発 明 者 高 梨 毅 雄 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクタ

⑯発 明 者 田 中 英 史 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクタ

⑰出 願 人 日本ビクタ株式会社 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

1. 発明の名称 する転写紙および記録紙収納カートリッジ。

2. 特許請求の範囲 (産業上の利用分野) 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

3. 発明の詳細な説明 (発明の技術) 近年、コンピュータ・グラフィクスなどのハ

4. 発明の効果 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

5. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

6. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

7. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

8. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

9. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

10. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

11. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

12. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

13. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

14. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

15. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

16. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

17. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

18. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

19. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

20. 発明の産業上の利用可能性 本発明は転写紙を介してリコーカムハフドにて記

れており、それらの記録紙に現れる記録を消去

一方、転写紙は、ペーパム上に例えば、

イエロー (Y)、マゼンタ (M)、およびシア

(C) の3色の色インクを用いたカラーでタ

の色インクと記録紙とを所定位置関係に機械的に

規定し両者を重ねさせて転写記録を行ない、この

際1番目の色の転写が行われた後、記録紙を元の

位置に戻すと同時に転写紙を返って前2番目の色

と記録紙とを所定の位置関係に位置させて再び転写

記録を行ない、以下同様にしてこの動作を繰り返

すことによって所望のカラー画像が得られること

である。

そして、この転写記録装置は転写記録を行なう度

に転写紙の色インクが記録されるため、必要に応じ

て転写紙の交換を行なう必要がある。また記録紙

が消費されることにより、適宜な時にこれを供給

しなくてはならない。

(発明が解決しようとする問題点)

ところで、このような転写紙の交換および記録

紙の供給をスムーズに行なうために、転写紙を収

納する転写紙収納部と、記録紙を収納する記録紙

収納部とを一体とした転写紙カートリッジが先

に提案されている。

即ち、このようなカートリッジは記録紙の供給

部または転写紙の交換時に他方の供給部を同時に

にリセットし、他方の開口がかなりずれている

にそれを用意しておくことにより、その交換

作業は比較的スムーズに行なわれ、記録紙または

転写紙が手元に残りといった不具合を避けること

800-1-122A72 (A)

トリプシンより抽出されて、低分子量6をフラクション  
ー544上を通過させた後、この吸収ロール4は、  
その内56、57などからなる吸収阻留物質  
と組成されて吸収方向に同定運動されるもので

ところで、第1図によつて本其明のカーリツラの  
 の具體的形態を説明する。  
 上記した如く得入角距離の先端部の高さ距離は  
 図2と、その前方足趾距離は図3とを、本其明の  
 したカーリツラ本其1の上記する距離は図2は  
 先方を開口して同其第一の片の図である。2は  
 けらなる2半の片と、一方これを2型として

[illegible]

間10日から実行されるのに対して、供給ロール5は従来10日から実行されるようにしてある。これは、上記した如く装置内に足組機構を下にして挿入されるカートリッジ本体1の上端10前面から取回ロール4が効果的に回転するための速度として考案されたものである。

恐らくローレル（または侯爵ローレス）は第3巻の  
 105頁に示すように、金銀、ガラスや陶器などから形  
 成された円筒状（パイプ）からなる所定長し、の  
 コアに、これより小さな細い、のポリエスチル  
 テーラムベース上に磁石磁石をフックまたは磁石が

[illegible]

1107-76a, 6b, 6cがその子に贈られ

また、上記コフ7は少なくとも副属語を用いた形としておひば無所属を表現する部分の形状は既に開かない。また更に、コフ7を表現0-ル4と

[illegible]

一方、低軌ローラ5は距離2.0、2.5の盛内所  
1.00、1.05にカトリック本館の下図1.0  
（記号は盛内所）から押入されるものである  
が、一方の盛内2.0側の盛内所1.05内には所6

[illegible]

ここで、第7号線を右折して南側ロープウェイ  
駅第10a、10bより入る。第7号  
線(八)に接するよう、セグメントの一方の端と  
第13号線(三)のセグメントとを結合させ、これ  
を第17号線(七)の力に代して接させ、O、方向  
を定めよう。そして、第10(b)に示すように、  
第7号線を第2bの第10bに



特爾平 1-122472 (8)

従つて、兩大國取50:50の關係により、

401, 407 的 2 個區中，每 1 秒 4 萬 1 千

そして、二点四段で示すセツティング位置に

この図の5・7は前田5・6を介してモータ5・5によ

このようにして板野狐6のローチインダが完了

一方、カートリッジAの記録磁気ヘッド3内に取

そこで、第1番目の曲のインク(Y)の記録は

そこで、例えば転写組分のインクが完了して整

この上記シバーの図解過程において、一方のホ

と組合している伝説鎮中13を回収し、レバーの

上記動作によりレバー461, 462が初期位置

田中、購入用のリフ20、21を揃えたカー

は組織材料としてを一体形成してある。そして、配

に、この切替された部分に足付の22を形成した

更に、本発明のカーソルの位相補正回路を第

第14図(A)は求知入状態の正面図、同図

この點、多數に於いて冠婚葬祭の出席を行なつて

ここで、本応用のカートリッジの第2の実施例

本見所の精製のカートリッジBは、上記したカ

第14図に示すように、カートリッジは上記

上:兄と阿波に転写の誤りあり

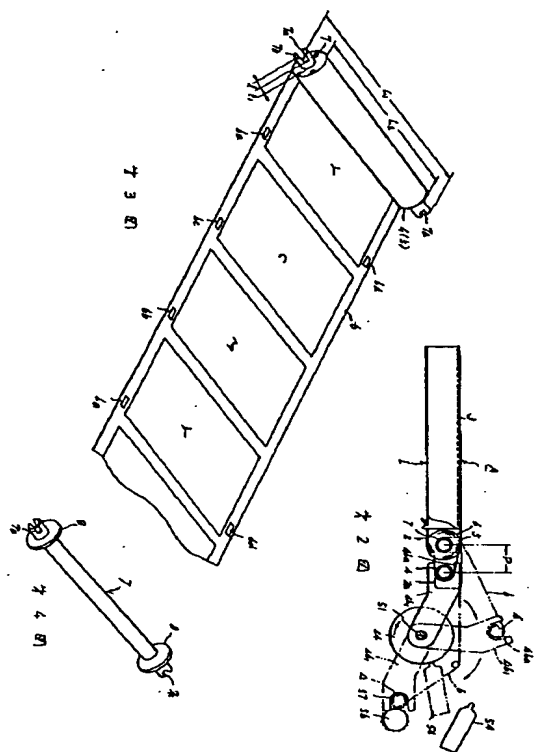
4433 7 10 0 2 3 4 5 6 7 8 9 . E , 7 1 4

けられることにより、ニホカ-トリマツCU金持

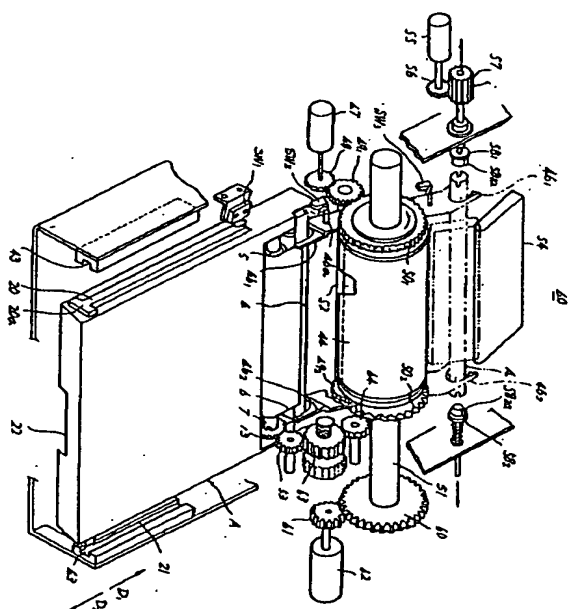
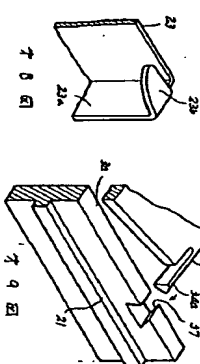
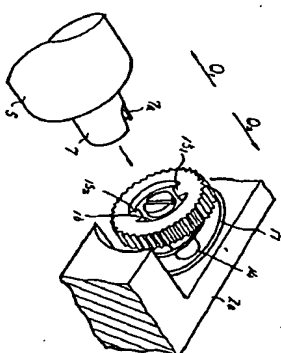
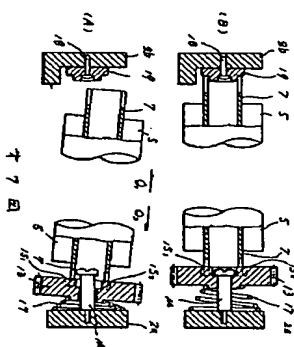
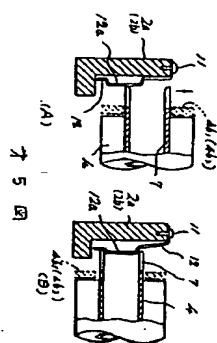
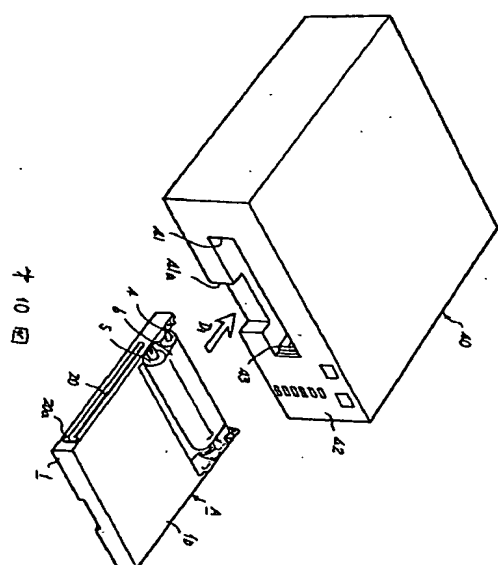
足は板敷の下の地下鉄を四上五休三入



特圖平1-122472 (11)



特圖平1-122472 (12)



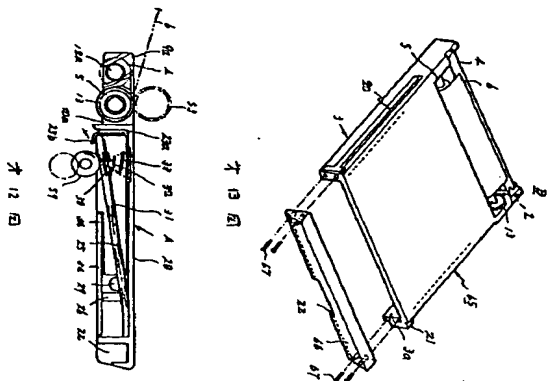
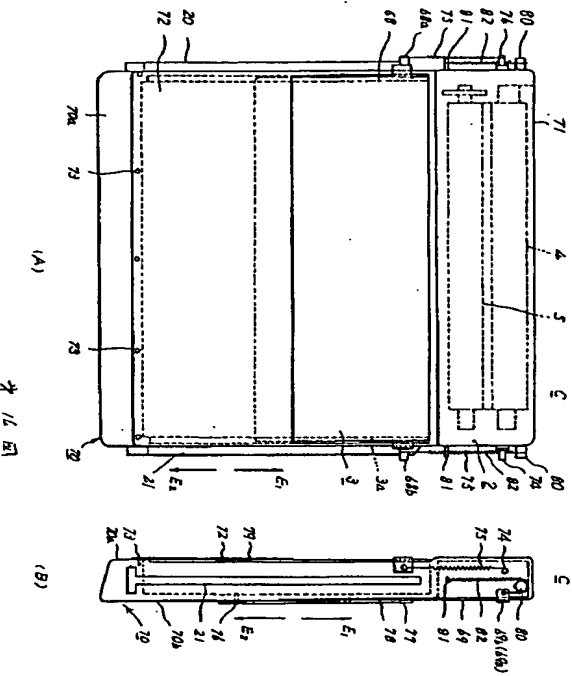
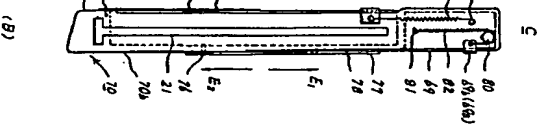


図 13



(A)

図 14



(B)

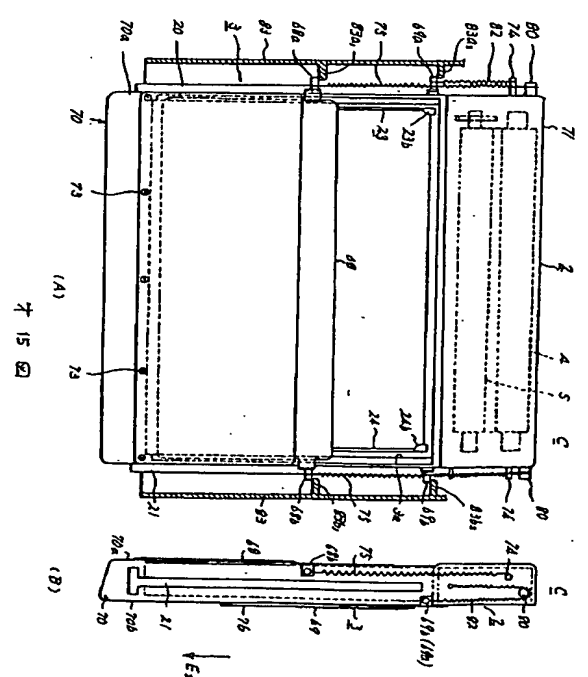


図 15

手続補正書 (方式)

昭和63年3月9日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示  
昭和62年特許願第280794号
2. 発明の名称  
振子駆動および記憶装置用カートリッジ
3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
住所 神奈川県横浜市神奈川区守国町3丁目12番地  
名称 (432) 日本エクター株式会社  
代表者 尾木 邦夫
4. 補正命令の日付  
昭和63年2月23日(発送日)
5. 補正の対象  
図面 図 15
6. 補正の内容  
図面の全図を明細書の通り補正する。

